



うちだっ子

重点目標 自分^{いち}一 で みんな^{いち}一 【校長：田中正信】

本日の学校だよりのタイトルにある「内田」の文字の校章。実はこれ、生成 AI が作ったものなのです。AI にもとの校章を読み込ませた後「この校章を、節分の雰囲気アレンジして！」と指示を出したところ、わずか数秒で「節分バージョン」の校章が完成しました。カラーで見ると細部まで季節感にあふれています。ぜひ、学校のホームページでそのクオリティをご覧ください。

世界中の膨大なデータをもとに、指示一つでイラストや文章をあっという間に作り出す。その「すごさ」には、驚きとともに、ある種の危うささえ感じます。今後、この生成 AI は授業にも導入されていきます。子供たちがこの新しい道具とどう付き合っていくべきか、メリットとデメリットを生成 AI が作成しました。(枠内は、AI が作成した文章です)

◎【メリット：好奇心と自信を育む「翼」として】

「なぜ？」を深め、能動的な学びに変える

子供は「知りたい！」の塊です。AI は、大人が即答できない疑問にも子供に分かりやすい言葉で答えてくれます。単に正解を知るだけでなく、「それなら、これはどうなの？」と自ら問いを立て、探究する習慣（能動的な学び）への入り口になります。

「できない」を「できた！」に変え、自信を育む

頭の中にあるイメージを形にするのが苦手な子にとって、AI は心強い相棒になります。表現を補うことで「挫折」を防ぎ、「自分にもすごいものが作れた！」という成功体験が、次の挑戦への自信につながります。

▽【デメリット：基礎力の低下と誤解の「リスク」として】

「自分で考える・書く」練習を奪う可能性

低学年は、鉛筆で文字を書き、拙い言葉で一息懸命に自分の気持ちを表現する「脳の筋トレ」が最も大切な時期です。安易に AI に頼ると、この苦勞してひねり出すプロセスが失われ、文章力や思考力が育たない懸念があります。

「もっともらしいウソ」を鵜呑みにするリスク

AI は自信満々に「ウソ」をつくことがあります。低学年の子供はそれを「絶対の正解」と信じがちです。情報の真偽を確かめるリテラシーが未熟な段階では、誤った知識や偏った価値観に影響される恐れもあります。

と、もっともらしい文章ができあがりました。私が考える情報教育の在り方とは、単なる技術の習得ではありません。子供たちが「どう生きるべきか」を考え、情報を自分や誰かの幸せのために正しく活用できる「力」と「心」を育むことです。技術がどれほど進化しても、最後にそれを扱うのは人間の「心」です。それこそが、難しい時代を生きていく子供たちにとって、生涯を支える揺るぎない「芯」になると信じています。

みんなで称えよう！

おめでとうのコーナー！



なんと！ 1年生全員です！

1月末に行われたソーラン披露の会で、1年生担任から学級の子供たち全員に『頑張りました賞』が贈られました。

学級内の実行委員の呼びかけで、一生懸命に練習に取り組んできたこれまでの過程と、当日の迫力あるソーランの姿から、一人一人に賞が贈られました！



読み聞かせボランティアさんを募集しています！

本年度、5名の「読み聞かせ【くすの木】」さんにご協力いただき、朝の読み聞かせを行っていただきました。

来年度も、子供たちが本に触れる機会を増やし、読書が大好きなうちだっ子になれるように、保護者の皆様、地域の皆様のお力をお借りして、子供たちに読み聞かせをお願いしたいと思います。

開催日時は、今後決定していきませんが、**8時から8時10分**までの10分間をお願いしています。決定した日時の中で、ご都合のつく日だけの参加で構いません。

絵本の読み聞かせに興味のある方、子供が好きな方はぜひご参加ください。よろしくお祈いします。

下記の2次元コードより入力をお願いします。



【担当：大村】

みなさんのご協力をお待ちしています！

